

CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



ニャンガ専門家とムラコIPC看護師(チャワマ病院)が紫外線を使って手指の清潔さを確認している様子

チャワマ病院、感染
予防と薬剤耐性に関
する研修を実施

ルサカ州、看護リ
ーダーが定例会議
で国別研修の学び
を共有

感染予防に向け
た連携強化へ:ル
サカ州保健局にて
IPC四半期定例会
議開催

チレンジェ病院、入
院病棟の改修完了
を発表



チャワマ病院、感染予防と薬剤耐性に関する研修を実施

チャワマ一次レベル病院の感染予防管理（IPC）チームは、4日間にわたり感染予防管理および薬剤耐性管理対策（AMRST）に関する研修を実施しました。

講師は感染予防管理の担当者が務め、環境衛生技術者のプリンス・ブワリャ氏、看護師のジャクリン・ムラコ氏、医師のオリバー・カオマ医師の3名でした。研修には、臨床医、清掃員、医療機器技師、薬剤師など200名以上が参加しました。

この研修の企画は、最近のIPC委員会において、医療従事者や支援スタッフの間でIPCや手術部位感染（SSI）、薬剤耐性（AMR）への理解不足が明らかになったことを受け、企画されたものです。IPCチームと病院経営陣は、包括的な研修を通じて、スタッフの知識の底上げにより、そ

の態度と実践の向上を図りました。

研修では、ブワリャ氏が廃棄物の分別と院内清掃の重要性を説明し、交差汚染の防止を強調しました。ムラコ氏は、手洗いの実演を行い、紫外線ライトを使って洗浄前後の手の汚れの洗い落としを可視化しました。カオマ医師は、AMRの発生要因と人体・医療制度への影響を具体例を挙げながら解説し、AMRが、患者個人だけでなく国全体にとっても治療コストを押し上げる深刻な問題であることを伝えました。

研修の終わりに、参加者は学んだ知識を同僚と共有すること、各部署の責任者は、IPCの実践と標準遵守を強化することを求められました。



チャワマ病院で開催されたIPC・AMRST研修。左からブワリャ氏（環境保健技術者）、ムラコ氏（IPC看護師）、カオマ氏（IPC医師）、ダカ氏（環境保健技術者）

ルサカ州、看護リーダーが定例会議で国別研修の学びを共有

ルサカ州保健局で看護リーダーによる四半期定例会議が開催され、前回のアクションポイントの進捗や成人看護の取り組みについて報告が行われました。

会議では、2025年1月に日本の国別研修(KCCP)に参加した2名の看護師が発表を行いました。チャワマ病院で感染予防管理を担当する看護師のジャクリン・ムラコ氏は、院内感染(HAIs)の予防の重要性とIPC体制の構築について発表しました。紫外線ライトを用いた手洗いの実演も行って手洗いの大切さを伝え、参加者の理解を深めました。

チパタ病院のモノ・シモコ氏は、患者中心のケアや廃棄物の色分け管理、歩行可能状態による患者分類など、日本で学んだ内容を紹介しました。また、日本の医療制度が法律の枠組みに基づいて運用されていること、バランススコアカード(BSC)に

よる計画管理や医療保険制度の活用など、具体的な仕組みも共有しました。帰国後に実施した改善例として、導尿バッグや点滴セットに設置時間を明記する実践も紹介しました。

さらに、ルサカ郡保健局の医療機器技師のフライデー・マタファワリ氏が各部署に医療機器チャンピオン(リンクパーソン)を配置する取り組みについて説明しました。これは、医療機器の適正使用、安全の確保、修理対応、記録保管などを病院の各部署で推進するものです。

ルサカ州保健局の主任看護担当官(CNO)イヌトゥ・バングエタ氏は、看護リーダーたちの努力を称え、模範となってアクションポイントの実行を進めるよう激励しました。



ルサカ州保健局にて会議の参加者を歓迎するバングエタ氏(主任看護担当官)

チレンジェ病院、入院病棟の改修完了を発表

チレンジェ一次レベル病院の入院病棟 (IPD) が、2025年3月27日にリニューアルオープンしました。この改修は、2024年12月から続いていました。

病院管理者のマーシー・ンディムバ氏によると、病院は「カイゼンと5S」の考え方にに基づき、質の高い医療サービスを提供するためのインフラ改善を重視してきました。今回、国民健康保険機構 (NHIMA) の収益の一部を充てて改修を進めたとのこと。

改修費用は、NHIMAからの送金により賄われ、病院内のインフラ整備、医療機器の購入、薬局・検査室・栄養・環境保健・管理部門などの整備に充てられました。通常予算配分は医療提供を最優先としますが、今回は環境改善に特化して予算を配分しました。

改修後の病棟環境は、清潔で整理

されたものとなりました。また、患者が移動しやすくなったことで、検査や治療のサービス提供の迅速化に繋がっているといいます。特に重症患者の移動がスムーズになり、放射線科など他部門にアクセスしやすくなりました。

病院スタッフは、自分たちの安全と働きやすさが考慮された職場環境となったことでモチベーションを高めています。

この新たな病棟では、個室スペースのほか、NHIMA患者・高額診療用スペース、職員用スペースの整備も同時に行われました。

チレンジェ病院では、このような環境の整備によって、より良いサービス提供が実現できるようになると期待されています。



上:改修前のベッド
下:改修後のベッド



上:改修前のトイレ
下:改修後のトイレ



感染予防に向けた連携強化へ： ルサカ州保健局にてIPC四半期定例会議を開催

2025年3月18日、ルサカ州保健局で、IPCの定例会議が開催されました。5つの一次レベル病院(チャワマ、チレンジェ、チパタ、マテロ、カニヤマ)から医師、看護師、環境保健技術者、検査技師などが集まり、各病院および病院間での取り組みの進捗と今後の方向性について議論が交わされました。

シムリアマニャ・チョオンガ州保健局長は開会の挨拶で、「COVID-19やコレラのアウトブレイクの経験から感染予防対策が特に重要である」と強調しました。また、『手術部位感染(SSI)サーベイランスのガイドラインと標準作業手順書』への大きな貢献にも触れ、一次レベル病院への更なる期待とJICAの支援への感謝を表明しました。

会議はチボーラ主任環境保健技術者の司会で進行しました。各病院からは、手術部位感染(SSI)サーベイランスとその対策、日本の国別研修で作成したアクションポイントの進捗状況が報告されました。チャワマ病院は手術部位感染(SSI)の報告提出率が100%と高い評価を受け、廃棄物管理の改善やスタッフ研修の実施状況を紹介しました。

会議の後半には、5つの対象病院で共通して取り組むアクションポイントに合意しました。例えば、業務の標準化(バランススコアカード、患者フィ

ードバック、廃棄物管理)、保健省が標準化した患者満足度ツールの職員へのオリエンテーション、バランススコアカード活用のモニタリング体制の整備、医療廃棄物の適切かつ迅速な改修体制の確保、手術後感染(SSI)に関するプロセスチェックリストとサンプル輸送のパイロット運用、SSI記録簿の定期的な点検と使用状況の監視、検査部門のIPC活動・会議への正式な参加などがあります。また、各病院で実施するアクションポイントにも合意し、抗菌薬適正使用委員会の設置を目指す病院もあります。閉会にあたり、チボーラ氏は「SSIチェックリストの活用を進め、手術部位感染の削減に努めてください」と呼びかけ、引き続きJICAチームの支援と病院間の連携強化の重要性を強調しました。

本会議は、地域全体で感染対策に取り組むための重要なステップです。質の高い医療の提供に向けた協働がますます求められています。

プロジェクトは、COVID-19以前に開催されていた定例会議を、関係者間のコミュニケーションの促進、グッドプラクティスに基づくボトムアップ型の標準化メカニズムの強化、各病院を超えた郡や州全域にわたる 이슈を議論する機会の提供を目標に支援しています。



左：発表するチボーラ氏(シニア環境保健担当官)

右：開会の挨拶をする
チョオンガ州保健局長

PHOTO FOCUS



第4回病院マネジメントハンドブック・ドラフティング会議で発言するシュラ院長(カフエ総合病院)



チレンジェ病院は患者満足度調査と待ち時間調査を実施



チバタ病院では、患者さんに点滴セットを装着した時刻をラベルに記載している



チャワマ病院のIPC・AMRトレーニングで参加者を激励するムシスカ氏(ルサカ州保健局臨床ケア専門家)



チレンジェ病院の新入院病棟では、患者マネジメントのためにカラーコーディングを導入



看護リーダーの四半期会議で医療機器リンクパーソンについて説明するマタフワリ氏(ルサカ郡保健局の医療機器技術者)



チャワマ病院で開催されたIPC・AMR研修での集合写真

編集・デザイン: コンベ カパタモヨ

編集: 緒方 敬

編集長: 村井 真介

連絡先

村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka,
10101, ZAMBIA

Cell: +260 765 192 865 (official)